

メキシコ金融政策（2019年12月）

メキシコ銀行は0.25%ポイントの利下げを実施

2019年12月20日

メキシコ銀行は4会合連続の利下げ

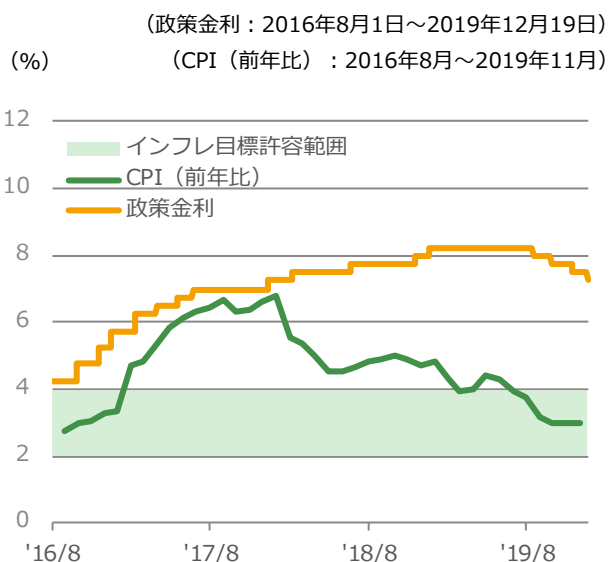
メキシコ銀行（中央銀行）は12月19日（現地、以下同様）、政策金利を0.25%ポイント引き下げ、7.25%とすることを決定しました。利下げは8月、9月、11月に続いて4会合連続であり、市場ではほぼ利下げが予想されていました。理事会メンバーの5人のうち1人が0.50%ポイントの引き下げを支持しました。

メキシコ銀行は声明文で、直近の米中通商協議の進展などに言及しつつも、依然として世界経済に下方リスクが残り、国内経済についても引き続き弱さが残っていると慎重な見方を示しました。また、11月のCPI（消費者物価指数）が3%を下回るなど、足元でインフレ圧力が見られないことも、利下げを後押しする材料になったと考えています。一方で、メキシコ銀行は、同国政府が12月16日に承認した最低賃金引き上げが2020年以降にインフレの加速要因になると述べ、インフレの上昇リスクにも言及しています。

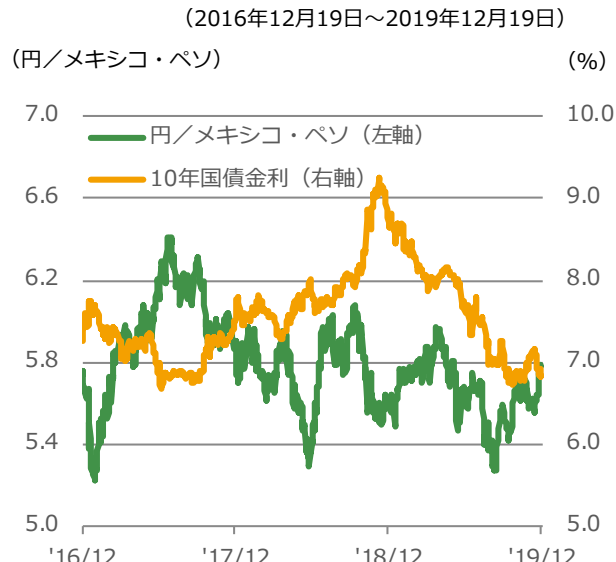
金融政策の先行きについて、メキシコ銀行はインフレなどの状況を注視しつつ、適宜必要な措置をとるとしています。10月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）以降、米国の追加緩和期待は大きく後退しましたが、メキシコの経済状況を考慮すると、追加利下げを行う余地はまだ残されていると考えています。

為替市場では、米中通商協議に歩み寄りがみられたことに加え、USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）をめぐる進展期待が、メキシコ・ペソの追い風になっています。世界的な金融緩和環境も続いており、外部環境の改善が継続すれば、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待され、メキシコ・ペソの上昇を後押しすると考えています。

政策金利と消費者物価指数（CPI）の推移



為替と国債金利の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。